ぐんま経済新聞

発行所　群馬経済新聞社
本　社　(郵便番号371-0855)
前橋市問屋町1-1-1 NF2ビル
電話代表 (027)252-7700
FAX (027)251-8218
郵便振替口座00390-5879
©群馬経済新聞社 2009

耕作放棄地で無農薬野菜栽培

農業体験で社会貢献も
取引先拡大し雇用促進へ

NPO法人元気のでるファーム

周辺の耕作放棄地を借り受け、今年4月から無農薬有機野菜の生産・販売を始めたNPO法人元気のでるファーム（桐生市梅田町2-251、北條太郎理事長☎0277-32-5311）は、障害者らの農業体験受け入れなどを通じ、掃苗面での社会貢献に取り組んでいる。また、このほど農林水産省の有機JAS認証を取得、付加価値の高い野菜を提供することで、初年度出荷店舗数50件を目指す。事業を軌道に乗せ、将来的には雇用促進にも貢献していきたい考えだ。（夏井啓之）

耕作放棄地を活用した畑ではステムレタスの収穫も間近

同NPOは今年6月に設立。スタッフは北條理事長のほか、弟で事務局長を務める北條琢磨氏ら3人。北條理事長は家庭菜園の手伝いを通して農業に興味を持ち、7年ほど前から作物の栽培方法や土作りなどについて、実験や分析、情報収集をし、試行錯誤しながら独自の栽培方法を構築した。

北條理事長

最大のポイントは土作り。土壌分析を行い、成分のバランスを取った土に作付けする。「健全な土を作るということは、自然本来のバランスを取り戻させること。栄養バランスが取れ、空気を含んでやわらかくなった土は、バクテリアやミミズの活動を促す」（北條理事長）と語る。作付け後、雑草はあえて抜かない。野菜に元気があれば、虫も雑草の方を食べてくれ、作物への被害を抑えられるからだ。

こうして育てた無農薬有機野菜は当初、知人らに配っていたが、北條事務局長は「市場に流通しているものと比べ、見た目もそれほど変わらなかった。手間は掛かるが、安心、安全でおいしいものをみなさんにお届けできる」と考え、今年4月から野菜の販売を開始した。

手掛けているのは、サラダなど生で食べられる野菜が中心。通年で常にものを出荷できるスケジュールを組んである。中でも売り出し中なのは、新品種の「金光菜（キンコウサイ）」。チンゲンサイやハクサイに近いが、柔らかく、くせもないので、生で食べられることが特徴。そのほか、「サラダあかり」「ステムレタス」なども食べやすく人気がある。

同NPOは9月4日付で有機JAS認証を取得。コストが掛かる分、価格は2～3割ほど割高になるものが多いというが、「付加価値を理解してくれる所に売りたい」（北條理事長）として、現在は桐生市内や東京のレストラン10件に直接納入している。今後も取引先の開拓を進め、初年度の目標は50件。そのほか、ホームページを通じた通信販売も計画している。

作付面積は借り受けている耕作放棄地を含め4カ所で約1ヘクタール。取引先の開拓と併せて耕作地の拡大も進める方針で、協力者を募り、2ヘクタール程度まで増やす考え。

農業体験の受け入れも行っている。精神疾患・障害のある人や、引きこもりの若者などに対し「社会復帰のために、外に出て活動するきっかけにしてほしい」として、今年6月にNPO化した。現在は12人が作業に参加しており、「自然に囲まれた畑で土に触れ、気持ちが良いと言っている」（北條事務局長）という。将来的には、リハビリの場としても提供したい考えで、医療・福祉機関との連携や、送迎サービスを検討している。

もちろん、一般人の農業体験も受け入れている。20～30代の若者がほとんどで、リピーターも多い。

体験をきっかけに、農業をやっていきたいとの声も挙がるという。そうした人を雇用できる体制を整えるためにも、事業拡大は必要だ。北條事務局長は「自分たちの農業が認知され始めたところ。付加価値を評価してもらえれば、雇用にもつなげ待を込める。

北條太郎理事長は「安全、健康に向けてもらい、いものを食べってもらいたいちの農業が無農法のビジネスモデルば。

県内倒産3件増の94件

負債総額大幅増も 6月以降は一段落

09年度上半期

東京商工リサーチ前橋支店のまとめによると、09年度上半期の県内企業倒産（負債額1000万円以上）の件数は94件で08年度上半期に比べて3件増加したものの、08年度下半期に比べ36件の減少で一段落した形。一方、負債総額は前年同期比344億8200万円増の628億1800万円で、過去10年で2番目の高水準だった。

倒産件数は過去10年の同期比で5番目に多い水準。負債総額はゴルフ場経営の白沢高原開発が約234億円だったため、総額を押し上げた。

業種別では、建設業が26件で最多。次いで製造業25件、サービス業13件、小売業13件が続いている。前年同期比で伸びが目立ったのは卸・小売業。

原因別では「販売不振」の44件が最も多く、「既往業績のシワ寄せ」が20件、「放漫経営」が12件、「他社倒産のあおり」が1件。

負債額1億円未満が26件、500万円以上1000万円未満が9件、個人企業が5件となった。地域別では高崎市が28件でトップ。次いで前橋市（20件）、伊勢崎市（8件）、太田市（前同）の順。

▽

東京商工リサーチ前橋支店のまとめによると、9月の県内企業倒産の件数は前月より7件増加し17件だった。負債総額もゴルフ場の大型倒産発生により前月より240億6300万円多い、26件で3件減。4カ月連続で前年同月を下回っている。負債総額は同174億3400万円の増加。業種別にみると建設業が7件、製造業が5件の順。同支店では今後の見通しについて「製造業が一段落し、数を落ち着かせる個人消費の停滞れない中で、住宅観光、小売など苦戦することが通」と分析している。

倒産件数は前年同月比

上野三碑テーマに
群馬学連続シンポ

県立女子大学などは10月31日、「第17回群馬学連続シンポジウム」を同大学講堂で開く。テーマは「上野三碑―輝ける古

ンターの熊倉浩ター長が「昔を始めた人々」とした後、シンポ開く。熊倉氏が め、パネリスト碑記念館初代館

ネット販売でも客単価は落ちているが幸念だ。

スピードというのが信か。我々はどちらに転んでも対処できるよう

谷浩史楽天社長と写る記念写真が飾られてい

引越しは安心できる地元の専門業者へ
群馬引越センター
駒形運送
本社・前橋
西毛・高崎営業所
東毛・太田営業所
梱包から解梱・不要物の処理及び保管まで
お引越しのお申込は料金無料のフリーダイヤル
0120-00-3885
夜間申込は
☎027-266-1072
FAX027-266-1954
【夜間・休日も営業】

主な記事

全室個室、料理も一新
日帰り温泉施設の「吉井温泉牛伏の湯」（高崎市）は今月下旬、全部屋個室の別館を新設、料理メニューも一新する。町田丞社長は「紅葉の季節が到来するので楽しい時間を満喫してほしい」と語る。（2面）
初のショートステイ 11月に・プランドゥ（3面）
「バイオマスタウン構想」にビジネスチャンス（6面）
セイノーオートサービス関東設立・関東西濃運輸（7面）
レーザー・プラズマの一体切断機・群馬大学工学部生産システム工学科（8面）
新感覚クリップを開発・アパートメント（9面）
洋服リフォームとの複合店・クリーニング小山（10面）
建設データ（3・4面）

群経オンライン http://www.gunkei.com

バッジ カップ メダル リボン シール
希彰堂
(231)3311

太田 工場 安心 カ 出張 見積 花稲荷 ☎

SI& Network Solutions.